



## 9月定例会のあらまし

第393回宮城県議会(9月定例会)は9月18日から10月17日まで、30日間の会期で開かれ、宿泊税条例など25議案を原案どおり可決・認定・同意しました。

# 知事説明要旨

## ○交流人口の拡大と地域経済の活性化について

観光を取り巻く状況も踏まえ、観光産業の持続的発展と魅力ある地域づくりの実現には、交流人口やインバウンド需要の更なる拡大、DX等の社会変革にも対応できる観光地域づくりの構築が極めて重要と考えております。そのためには、観光産業の活性化、魅力ある観光資源の創出や観光客受入環境の充実などを地域と一体となって継続的に進めていくことが不可欠であり、安定的な財源確保が必要であります。このような認識の下、県では、みやぎ観光振興会議の開催に加え、県内各地域に担当者が出向いて、市町村や宿泊事業者をはじめとする観光関連事業者の皆様と地域が抱える課題や宿泊税導入の必要性、今後の観光施策に関して意見交換を重ねてまいりました。そして、皆様からの御意見や御要望を踏まえ、改めて地域課題に即した税の制度設計や新たな観光施策について検討を行いつつ、仙台市とも調整を図り、今議会に新たな条例案を提案しているところであります。今月12日には県民説明会を開催し、私から宿泊税導入の必要性について御説明を行うとともに、参加された皆様からこれまでの取組やこの先の観光振興に関して貴重な御意見を直接伺うことができました。今後とも財源を活用した効果的な施策のあり方について、県民の皆様の声にしっかりと耳を傾け検討を進めてまいりますので、議員各位におかれましては、御理解・御協力を賜りますようお願い申し上げます。

## ○仙台医療圏における病院再編について

現在、名取市に新設される統合新病院の概要について、県、日本赤十字社、県立病院機構に東北大学を加えた4者で検討を進めております。一方、東北労災病院と県立精神医療センターの合築については、センターのあり方に関し、柔軟かつ多角的な視点から検討を行いつつ、引き続き協議に当たっているところであります。また、懸念を抱いている仙台市との協議においては、救急医療及び精神医療を中心に議論を進め、病院再編が仙台医療圏の政策医療に与える影響等について、具体的に論点を確認しながら順次検証している状況であり、残る項目についても協議を継続していくこととしております。今後も再編による政策医療の課題解決に向けて、関係者や関係自治体と十分に調

整を図りながら取組を進めてまいります。

## ○東日本大震災からの復興に関して

8月、国の復興推進委員会が開催され、地震・津波被災地域における第2期復興・創生期間までの復興施策の総括と令和8年度以降の方向性に関する議論が行われました。私は、この会議に出席し、被災者の心のケアなどのソフト面や東京電力福島第一原子力発電所事故に起因する諸課題について、地域の実情に配慮した丁寧かつ継続的な支援が必要と訴えたところであります。

## ○その他の項目

・地域産業を支える人材の確保に向けた取組について 他

